

第 42 回皇后杯県予選大会ガイドライン

(一社)和歌山県サッカー協会 女子委員会 2020.7.15 (改訂)

1. 基本的な考え方

- ①安全最優先（感染拡大のリスクを最小限とする）
- ②不当な扱い・差別等の禁止（感染状況に起因する一切の差別や誹謗・中傷の発生を許さない）
- ③政府や和歌山県・郡市が示す活動参加者・施設・エリアに適用される各種規制・ガイドライン遵守
- ④新しい生活様式への適応（逆戻りの可能性を常に意識）

2. 事前の申し合わせ事項

- ①以下の事項に該当する場合には参加見合わせる。
 - ・体調が良くない場合（発熱・咳・咽頭痛など）
 - ・同居家族や身近な人に感染が疑われる方がいる場合
- ②指導者・スタッフ・参加選手・運営関係者は健康チェックシート(検温 2 週間分)の提出とマスクの着用を徹底する。(熱中症・呼吸困難を避けるため活動時は必要に応じて外してもよい)
※健康チェックシートの提出のない選手は出場できない。
- ③非接触型体温計と WBGT 測定器は、女子委員会が準備し設置する。
- ④試合当日の感染拡大防止に必要な消毒及び手洗いポンプ等は、女子委員会が準備し設置する。
- ⑤新型コロナウイルス感染症を発症した場合には速やかに報告する。
(チーム代表者等→女子委員長→専務理事・会長→中止)
- ⑥他人との接触状況の把握をしておくよう各チームに促す。(万が一感染した場合への準備)

3. 試合会場等における感染防止対策

(1) 諸室・テント等

- 各部屋にアルコール消毒液を設置する。
- 全てのドア及び窓・換気扇を開け、3つの密が発生する環境をつくらない。
- ドリンクを冷やすためのドブ漬けは使用しない。救急用としてのみ氷を用意する。
- 座席を設置する際に前後左右 1～2m間隔をあげ、お互いが正面に座らないよう配慮する。

(2) 手洗い場所・トイレ

関係者、参加チーム選手・スタッフなどはこまめに手洗いを行う。

- 手洗い場にポンプ式液体または泡石けんを用意する。
- 手洗いは 30 秒以上行うようにする。
- 手洗い後に手を拭くタオル等は個人で用意し、他人には貸さない。

(3) ロッカールーム

- 広さにはゆとりを持たせ、選手同士が密にならないようにチームで指導する。

- ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する人数を制限し更衣のローテーションを組む等工夫する。
- 換気扇がある場合は常に回す、2つ以上のドア、窓を開けて換気を行う。
- 選手及びスタッフはマスクを着用し、会話を最小限に留める。
- 更衣室は更衣のみに使用し、更衣終了後直ちに退室するよう各チームで徹底する。
- 選手がシャワーを使用する場合は交代で使用し、密を避けるよう各チームで徹底する。
- 使用後のロッカールームの消毒は、本部にある消毒液を使って大会運営員で行う。

(4) 審判控室

- 広さにはゆとりを持たせ、審判員同士が密にならないようにする。
- 審判員はマスクを着用し、会話を最小限に留める。
- 審判員は審判控室の滞在時間を短くするため着替えに限定する。
- 審判員がシャワーを使用する場合は交代で使用し、密集は避ける。
- 審判員同士のミーティングは会場で3密とならないスペース等で実施する。
- 使用後の審判控室の消毒は、本部にある消毒液を使って大会運営員で行う。

(5) ベンチ

- ベンチでは間隔を空けて座れるよう工夫して椅子を設置する。
- 暑熱対策として追加テントの設置も可能（必要に応じて各チームで対応すること）
- 使用後のベンチの消毒は、本部にある消毒液等を使って大会運営員で行う。

(6) 来場者・観客・ピッチ外応援の対応

- 来場者・観客と選手が使用する出入口を分け、来場者・観客のみが使う出入口を確保する。
- 会場へ入って観戦する来場者・観客については、氏名・連絡先を必ず名簿に記入してもらう。

大会運営員が非接触型体温計で体温を測定し、併せて記入する。

※体温が37.5℃以上の人については、会場に入ることができない。

- 来場者・観客の出入り口にアルコール消毒液を設置する。
- 来場者・観客はマスクを着用する。
- 大声での声援や大旗・鳴り物を使うなどの応援は行わない。（ベンチ外選手の応援も同様）
- 会場での応援は間隔を保ち、ハイタッチ・抱擁・肩を組むなどの行為は控える。

(7) マッチコーディネーションミーティング（MCM）における伝達事項

- 試合前と後のセレモニーはなしとする。
- 両チームベンチへの挨拶を実施しない。
- 円陣はしない。
- 倒れた選手に手を貸さない。（大会補助員がマスクをした上で担架を利用して対応する）
- 得点時にハイタッチ・抱擁を行わない。（エアータッチは可）
- ピッチ内でも咳エチケットを守り、つばを吐く、手鼻をかむなどの行為は行わない。
- 口に含んだ水を吐かない。
- ボトルを共有しない。
- 水・氷を溜めたクーラーボックスを共有しない。

- タオルを共有しない。
- ピッチ上での会話は互いの距離を配慮すること。
- ベンチ内ではソーシャルディスタンスを保ち、スタッフ・選手は基本的にはマスクを着用する。（熱中症・呼吸困難を避けるため、活動時は必要に応じて外してもよい）

(8) ゴミの処理

ゴミについてはチームの責任で必ず持ち帰ること

4. 事後対応

万が一新型コロナウイルスの感染が発生した場合に備え、個人情報取り扱いに十分に注意しながら、大会当日に参加選手・スタッフ・運営関係者から提出された健康チェックシートを、保存期間（少なくとも1ヶ月）を明記した上で保存すること。

また、試合終了後3日以内に、各チーム代表者に大会責任者（女子委員会委員長）が連絡を取り、具合の悪い選手・スタッフがいらないか確認すること。

万が一参加選手・スタッフ・運営関係者の中から、新型コロナウイルス感染症の感染が判明した場合や、地区の生活圏において感染拡大の可能性が報告された場合は、大会を中止し、その後の対応はWFA会長・専務理事や地方自治団体の指示を受けて適切な対応をすること。

以上